

【普通科】 1年次 **必修・選択** 科目「国語総合(古典)」授業のシラバス

1 概要

教科名	国語	科目名	国語総合(古典)	単位数(コマ数)	2単位(97コマ)
科目の目標	国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力を伸ばし心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。				
教科書(出版社)	高等学校 改訂版 国語総合 (第一学習社)	副教材(出版社)	体系古典文法(数研出版) 重要古典単語[三訂版](桐原編集部) 漢文基本ノート(浜島書店) ビジュアルカラー国語便覧(大修館書店)		

2 学習の方法

(1) 予習について

基本的に毎時間、授業の始めに小テストを実施します。内容は古文単語、古文文法、漢文句法などです。予め小テストの内容、範囲を伝えますので、必ず予習しましょう。また、新たな単元に入る際には、本文をノートに書き写したり、単語の意味を調べたりするなどの予習が必要となります。

(2) 授業について

古典では使用する副教材も多くなりますので、忘れ物をしないようにしましょう。1年生のうちは、古文や漢文の書き下し文の音読が多くなります。古典の学習の上で、古典独特のリズムに慣れることは大切なことです。また、グループワーク等も行います。積極的な姿勢で授業に臨みましょう。

(3) 復習について

授業で学習したことをその日のうちに復習しましょう。授業で学習した本文の内容(口語訳、書き下し文)を確認するとともに、単語や文法、句法については重点的に復習するようにしましょう。その際、『体系古典文法』、『重要古典単語』、『漢文基本ノート』の副教材を参照して復習することで、より理解が深まります。

〈学習アドバイス〉

古典の魅力、面白さは、昔の人のものの見方や、考え方について知ることができることです。昔の人がどんなことを考え、どんな悩みを持ち、何を表現しようとしていたかを知ることは、今の生き方のヒントになることもたくさんあります。ぜひ、古典の学習を通して、様々な文章にふれ、自分自身のものの見方、感じ方、考え方を豊かにしてほしいと思います。

そして、古典に書かれた内容を正確に読み取るためには、単語、文法、句法などの基礎知識が非常に重要になります。特に、1年生で学習する基礎知識は、以後の古典の学習の土台となるものですから、しっかりと身に付けてください。みなさんが、基礎知識をしっかりと身に付けられるよう、基本的に毎時間、授業の始めに小テストを実施します。予習を欠かさず、毎回、満点を目指して取り組みましょう。様々な文章に触れ、基礎知識を確認しながら、本文を正確に読み解いていくことで、古典の読解力が身につけていきます。

3 評価について

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
① 関心・意欲・態度	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとしているか。(授業や提出物に対する取り組み姿勢を評価します。)
② 読む能力	古典の文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させているか。(古典の文章を的確に読み取り、筆者の主張を読み取ることができているかを評価します。)
③ 知識・理解	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けているか。(単語、文法、句法などの基礎知識が身に付いているかを評価します。)

(2) 評価の方法(以下観点①～③は「(1) 評価の観点」と対応する)

観 点	評価材料		定期考査・確認テスト 実力テスト	小テ スト	授業 ノート	レポー ト等	休業中 の課題	グルー プ ワー ク
	割合							
① 関心・意欲・態度	30%			○	◎	◎	◎	○
② 読む能力	40%	◎	学習の状況に応じて、授業で学習した文章の他に、初見文を出題することがあります。		○	○	○	○
③ 知識・理解	30%	◎	『体系古典文法』、『重要古典単語』、『漢文基本ノート』から範囲を指定して出題することがあります。	◎		○	○	○

〈担当者からのメッセージ〉

どの科目にも共通して言えることですが、忘れ物をしないこと、提出物は期限を厳守することが大切です。ノートやワークシートを提出する際は授業の中で説明をしますので、しっかり聞いて確認しましょう。また、教科書やプリントなどの教材を紛失しないようにきちんと管理することも心がけてください。

学習の基本は授業です。定期考査・休業明けテストに向けてしっかり勉強して臨むことは言うまでもないことですが、授業の予習・復習のサイクルを確立させることが何より大切です。特に古典は予習をすることで授業の理解度が大きく変わる科目です。授業で新しい単元に入ったら、事前に古文単語を調べて、自分で古文を訳して読んでみるのが大切です。そして、古典文法などの覚えるべき文法事項が授業の中で出てきたら、自宅に帰ってしっかりと復習しましょう。最初のうちは覚えることがとても多い科目ですので、諦めずに繰り返し学習していくことが必要になります。

最後になりますが、皆さんと一緒に学習していくことをとても楽しみにしています。一緒に頑張って学習していきましょう。

【普通科】 1年次 **必修・選択** 科目「国語総合(古典)」授業のシラバス

4 授業計画

月	単元	時数	学習内容	観点別評価	到達目標	考查等
前期 4	古文入門 説話	8	○音読 ○古文の言葉と仮名遣い ・文章に描かれた人物、心情を表現に即して読み味わう	① ③ ②	歴史的仮名遣い・語句の意味について理解できる。 文章を表現に即して読み、登場人物の心情や人物像をとらえることができる。	小テスト ↓
5	古典文法入門	10	○単語の分類 ○用言の活用 ○係り結び ・文法の基本を理解し、文章理解をいっそう深める	③ ②	品詞、文語のきまり(歴史的仮名遣い・動詞・形容詞・接続助詞)を理解できる。 文章を表現に即して読み、登場人物の心情や人物像をとらえることができる。	↓
6	物語を楽しむ	7	○基本的な助動詞 ・作者のものの見方や考え方を、表現に即して読み味わう ・文語のきまりや語句の意味を理解する。	② ③ ①	文章を表現に即して読み、登場人物の心情や人物像をとらえることができる。 文語のきまり(助動詞)を理解できる。	前期中間考查 ↓
7	漢文入門 故事成語	12	○訓読のきまり ・文章に描かれた人物、心情を表現に即して読み味わう ・国語における言葉の成り立ちを理解する。	③ ②	漢文訓読の基本事項を理解できる。 それぞれの登場人物を筆者がどのように書いているのかをとらえ、故事成語の意味を理解できる。また、日本語との関連について理解できる。	↓
8	随筆を読む	6	○主な助動詞 ・文章の構成や展開を確かめ、筆者の意図をとらえる。 ・文語のきまりや語句の意味を理解する。	② ③ ①	修辭法など筆者の工夫をとらえ、筆者がなぜこの文章を書いたか、なぜこのように書いたかなどに迫ることができる。 文語のきまり(助動詞)を理解できる。	夏季休業課題 ↓
9	説話を読む	6	○基本的な助動詞 ・文章に描かれた人物、心情を表現に即して読み味わう。 ・文語のきまりや特色を理解する。	③ ① ③	文語のきまり(助詞)を理解できる。 文章に描かれている人物の心情を表現に即して読み、歴史背景も含めて読み深めることができる。	休業明け実力テスト ↓
後期 10	古代の史話	10	○主な句法、助字 ・文章に描かれた人物、心情を表現に即して読み味わう。	② ① ②	訓読のきまり(漢文句法、助字)を理解できる。 表現技法や文体などの工夫や心情の推移を的確にとらえることができる。	小テスト ↓
11	日記を読む	10	○日記文学の読解 ・文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読み、文章の構成や展開を確かめ、筆者の意図をとらえる。	③ ②	文語のきまり(助動詞、助動詞の識別)について理解できる。 日記文の構成や展開を確かめ、筆者の意図を理解できる。	↓
12	中国の思想	9	○中国思想の理解 ・中国思想における理想的な生き方・考え方を理解する。 ・我が国の文化と外国文化の関係について気付き、興味関心を広げる。	② ③	中国思想において理想とされた生き方を表現に即して読み取り、自身の生活経験から読み深めることができる。 我が国の言語文化は、中国の文化の受容とその変容を繰り返しつつ築かれたことを理解できる。	後期中間考查 ↓
1	和歌	6	○和歌の修辭 ・我が国の伝統的な言語文化について理解する。 ・文語のきまりや語句の意味を理解する。	① ③ ②	和歌の表現方法やその価値について理解し、修辭や語句の用い方について理解できる。 和歌の修辭をふまえて読むことができる。	休業明け実力テスト ↓
2	漢詩	9	○漢詩の形式 ・漢詩のきまりを理解する。 ・詩に描かれた人物、心情を表現に即して読み味わう。	① ③ ②	絶句・律詩の形式や押韻など、漢詩のきまりについて理解できる。 情景や心情を、どうして筆者がこのように描いているかとらえ、修辭や表現効果に気付くことができる。	小テスト ↓
3		6				後期期末考查 ↓
		計 97	※○基本知識事項		※①小テスト、レポートや課題、グループワーク等より評価する。	春季休業課題

※ 観点別評価①は関心・意欲・態度、②は読む能力、③は知識・理解を表しています。

※ 授業計画は進度により前後することがあります。